



「ピースあいち 戦後80年事業」 7つのプロジェクトが進行中です

テーマは
「戦後80年 平和な未来のために 今
知る 考える 動く 伝える」

戦後80年に想う

館長 宮原大輔

戦後80年、戦争の時代は遠くならうとしている。ピースあいちが戦争の時代を後世に伝えることが目的だから、伝える事柄が大きく変わるものではない。

一方で、ピースあいちが年間に4、5回の企画展示を開催していて、その都度新しいテーマが生まれて、新しい切り口が生まれている。戦争を伝えていくことの内容は多岐にわたり多様だからだろう。

現在の企画展では、80年前に名古屋空襲を行っ

たB29搭乗員の遺品が展示されており、その中の戦闘証明書には6回にわたり名古屋空襲を行ったことが詳細に記載されている。米国在住のご子息の提供であるが、空襲を行った側の当事者個人の戦闘記録資料が日本国内で公表されるのは珍しい。

80年経っても戦争を伝える新しい事実が出てくる。だから企画展を開催する意味は大きい。

ピースあいちはこの5月に設立18年を迎える。常設展示の内容はほぼ変わっていない。常設展示と企画展示で、戦争の時代をこれからも愚直に伝えていきたい。

A. Z世代と戦争(体験型ロールプレイング)

ピースあいちの若い世代で作る「次世代交流チーム」が、戦争と平和を考えるロールプレイングゲーム「ロールプレイで考えよう～この国に戦争が起こるとしたら～」を発売しました。彼らが運営する「学生の日」(=学生さんに無料で入館していただき、気軽におしゃべりをするイベント)で、このロールプレイングを実践してさらにブラッシュアップしていきます。

B. 戦争体験の語り手の動画アーカイブの整備

ピースあいちが約100本の戦争体験者の語りのDVDを保存しています。それを多くの方に視聴していただき、さらに活用し、貴重な戦争資料として後世に手渡していくようにデジタルアーカイブの整備を進めています。

C. 夏の企画展 7月22日(火)～9月13日(土)

その1「ピースあいちの語り事業」

2007年の開館時から続けてきた「戦争体験者による語り事業」、そして2017年から始まった戦争を体験していない方による「戦争体験の語り継ぎ事業」。それらを振り返り、次の時代へどう伝えていくかを考えます。



B. 1階と2階で視聴できます

その2「学び舎から戦場へ」

「学徒出陣」「予科練志願」「特攻」。戦況の悪化により、戦争末期には多くの若者が学び舎を去り、戦地へ赴きました。その過程で何が起こっていたのか、戦後80年の今、改めて見つめ直します。

D. 『戦争体験談集』の編集・発行

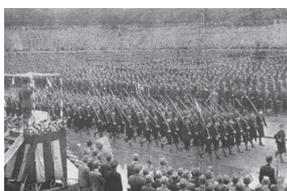
戦争を体験された方たちの貴重な「戦争の記憶」を後世の人たちに残す取り組みです。今回で第5回目になります。原稿募集中です。

E. 平和の作品づくり

来館者に平和や戦争についての「思いや想い」を自由に書いていただき、それを集めて一つの大きな作品(ちょうちん、アオギリ、翼)を作り上げます。

F. 常設展示「現代の戦争と平和」のパネル追加

この10年、実に様々な出来事がありました。10年を振り返り、常設展示「現代の戦争と平和」を充実させます。



C-2. 1943年10月21日学徒出陣壮行会 出典:アジア歴史資料センター (原本所蔵:国立公文書館)



E. 「平和の樹」(2015年 戦後70年 P.J.)

開催中 2025年名古屋空襲展

「80年前、父は名古屋を焼き尽くした—B29搭乗員の記録から」

2025年3月11日(火)～5月17日(土)

戦時、名古屋への空襲にB29搭乗員として加わったロバート・B・フレミング。彼が遺した「戦闘記録」など戦闘員個人にあてた公的文書と私信など200点を超える資料や写真と、米国立公文書館所蔵の米軍の日本への攻撃作戦の資料を照らし合わせて解説するとともに、文字通り名古屋が焼き尽くされた3月12日、19日、24日、5月14日、17日、その時、地上で起こっていたことを、空襲の中にいた人々の証言、絵、当時の新聞記事などで紹介しています。

米軍の資料や写真は、ロバート・B・フレミングの息子、ボブ・フレミングさんからピースあいちに寄せられた遺品の数々です。

◆同時開催

ボブ・フレミング作品展「名古屋を消すプロジェクト」

ニューヨーク州バッファローを拠点に活動するビジュアル・アーティスト、ボブ・フレミングが2013年から始めた

「名古屋を消すプロジェクト」の中から11点の作品を展示しています。

*3月29日(土)にはボブ・フレミング製作の映画「しがみつ き、燃え続ける(名古屋を消す)」の上映とボブ・フレミングさんのトークを開催し、50人が参加しました。

【展示内容】

- 父ロバート・B・フレミングの生涯
- ロバート・B・フレミングが残した戦闘記録
- コラム 焼夷弾の開発と種類
- その日 名古屋の上空と地上で
- 父ロバート・B・フレミングの戦後
- 「名古屋空襲」から考える



会場風景



作品展



映画上映とトーク(3月29日)

報告 第12回寄贈品展「知ってほしい 戦争の時代」

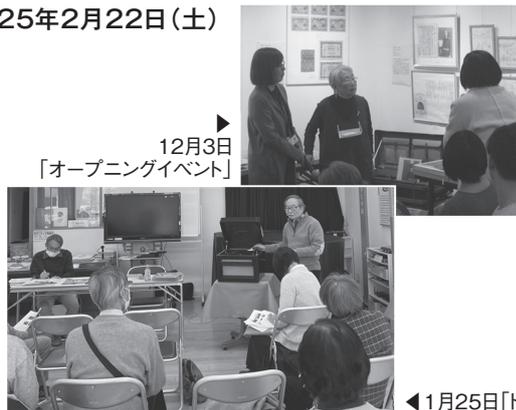
2024年12月3日(火)～2025年2月22日(土)

今回は30名の方の寄贈品を展示しました。期間中の来館者は496名でした。

1月25日(土)にはトークイベントを開催し、次の3点について説明しました。

- ①衣料切符や回数購入券
当時の切符制、配給制の解説と物資の窮乏の様子を紹介しました。
- ②終戦間際に満州(現:中国東北部)と朝鮮で使われた鉄道の切符
当時、現地で運行されていた南満州鉄道や朝鮮総督府鉄道の概要と運行の様子を紹介しました。
- ③今でも聴くことができる蓄音機
寄贈のいきさつを紹介し、寄贈された蓄音機で戦中、戦後の歌謡曲を演奏しました。

展示会では、寄贈者と展示の準備に携わったボランティアとの交流がありました。12月3日(土)のオープニングイベントでは、2人の寄贈者をお迎えしてお話をうか



12月3日「オープニングイベント」



◀1月25日「トークイベント」

がいました。また埼玉県に住む寄贈者が展示を観に来館され、この方の展示を担当したボランティアと会ってお話をしました。このような寄贈者との交流は、展示に携わったスタッフにとって大変貴重で、達成感や充実感を味わうことができました。

この寄贈品展は、「戦争の時代」がどういうものであったのかを感じ取り、平和を考える機会になったことと思います。

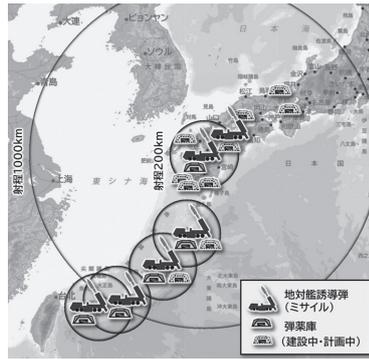
予告 準常設展「沖縄から平和を考える
—沖縄の基地問題は私たちの問題—

5月27日(火)~7月12日(土)

6月23日の沖縄慰霊の日を中心に毎年開催している「沖縄展」は、琉球王国の時代から沖縄戦、そして現代まで、沖縄の歴史を振り返る準常設展と、毎年異なる特定テーマに焦点を当てた展示で構成されています。一昨年は、日本最西端の与那国島から宮古島、奄美大島、馬毛島に至る南西諸島に次々と自衛隊基地が建設されミサイル部隊が配備されるなど、「南西諸島軍事要塞化」が進んでいることを取り上げました。

その後、2022年12月の安保関連3文書の閣議決定などを受け、南西諸島軍事要塞化がさらに強化されつつあるとともに、南西諸島有事の際に遠隔地となる本土から敵に反撃を加えるための自衛隊軍備強化「日本列島軍事要塞化」が、西日本を中心にすでに始まっています。

今回の展示では特別テーマとして、「南西諸島軍事要塞化」のその後と「日本列島軍事要塞化」に至る動き、加えて、急速に進んでいる自衛隊と米軍が一体となった軍事態勢を取り上げます。沖縄の基地問題は私たちの問題、広く日本に住む私たち全員の問題であることに向き合いたいと思います。



(左)2015年以降に配備された主な自衛隊ミサイル部隊と弾薬庫(弾薬庫は建設中・計画中のものを含む)(上)12式地対艦誘導弾(陸上自衛隊HP)

◆関連展示

- 2階プチギャラリーー 沖縄戦を語り継ぐ:自治体の取り組み
- 2階映像コーナーー 沖縄戦の体験証言
- 3階視聴コーナーー 動画「米軍基地のある日常」

◆イベント「トーク&映画」

6月21日(土) 13時30分~16時

トーク:「沖縄民衆のチカラ」45分

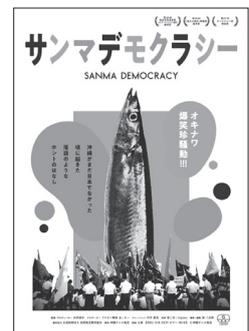
阪井 芳貴 氏

(名古屋市立大学名誉教授)

映画:「サンマデモクラシー」

(2021年製作/90分)

50名 要電話予約 ☎052-602-4222



報告 「学生の日」を開催しました

3月16日(日)

2021年のコロナ禍でのオンライン開催以来となる第5回「学生の日」を開催しました。当日は生憎の雨予報で、事前の告知も思うようにはできず、準備も含め不安のある中で迎えた本番でしたが、高校生8名、大学生5名の方々にお越しいただきました。

午後からは、「ロールプレイで考えよう~もしこの国に戦争が起こるとしたら~」も開催。それぞれの役割になって、戦争が起こる過程を疑似体験することで「平和」から「戦争」への視点で考えるイベントです。活発な発言や意見が多く、とても盛り上がりました。イベント後には「楽しかった!」「新しい視点で学びになった」などの感想をいただき、4名の方が次世代交流チームにも参加してくれることになりました。



2023年に当時高校2年生の子たちが立て続けにボランティア、次世代チームに参加し、働き盛りの20代が起案して、この日のために準備をしてきました。受験や仕事で忙しいなかでの活動は大変だったと思いますが、大成功といえる結果で本当に良かったと思います。

戦後80年の今年はまだ一度「学生の日」を開催予定です。イベントにさらに磨きをかけて、多くの学生の方々をお迎えしたいと思います。

予告

●ピースあいち2025年の企画展(予定)●

◆2025年名古屋空襲展

「80年前、父は名古屋を焼き尽くした
—B29の搭乗員の記録から—

▶3月11日(火)~5月17日(土)

◆沖縄から平和を考える

特別テーマ「沖縄の基地問題は私たちの問題」

▶5月27日(火)~7月12日(土)

◆夏の企画展

「ピースあいちの語り事業」「学び舎から戦場へ」

▶7月22日(火)~9月13日(土)

◆夏季休館

▶9月14日(日)~9月22日(月)

◆「戦争の中の子どもたち」「戦争と動物たち」

▶9月30日(火)~11月22日(土)

◆寄贈品展

▶12月2日(火)~2026年2月21日(土)

◆冬期休館

▶12月27日(土)~2026年1月5日(月)

平和へのメッセージ

新聞やテレビは戦争の話で埋まっています。それを取材したあるジャーナリストは、とりわけ無気味だったのは地雷原に入ったときだったと言います。地雷はどこに埋まっているのか分かりません。実際、政府関係者の一人は地雷に触れて亡くなってしまいました。

葬儀の席で、涙にくれた妻や子どもの顔を見たときには、しみじみと殺し合いの空しさを思ったと言います。戦争は殺し合いだけではありません。火器を使わない戦争、情報を使った戦争など、いろいろです。そのいろいろについて寄稿していただきました。

他者の声に応答する高校生たち

古田 知子
(東邦高等学校教員)

2014年に要望書を出して10年、多くの方々のご協力を得て、高校生の運動が「なごや平和の日」として結実しました。「なごや平和の日」が意味のある日になるように、生徒たちは「平和実行委員会」を立ち上げて取り組み続けています。

昨年度の文化祭では、満蒙開拓団を経験された橋本克己さんと、国に民間人への補償を求めて声を上げ続けた杉山千佐子さんの経験を朗読にして発表し、自分たちの平和への思いをライブペインティングで表現しました。また現在は、東邦の大先輩・岡島貞一さん(97歳)の空襲体験を「おかちゃんとピース!」という絵本にして、子どもたちに読み聞かせをしようという活動をスタートさせています。「戦争では何も解決しない。話し合いで解決しなければならない」と語られる岡島さ

んの強い思いを幼い子どもたちにも伝えられる絵本を目指して、繰り返し話し合いながら作っています。



絵本作りのために取材する生徒たち

哲学者の高橋哲哉さんはかつて、日本の侵略行為に対して多くの被害者が声をあげ始めた時、戦後生まれの私達にはそうした声に応答する責任(Responsibility)があると話されていました。高校生たちの取り組みも、まさに他者の言葉に耳を傾け、応答するものです。細くても、長く長く続けていきたいと思います。

平和の船ピースボートに乗船して

小野田 孝子
(ピースあいち ボランティア)

ピースボート第117回世界一周の船旅に昨年の4月13日から7月26日までの105日間参加してきました。乗船は今回が3度目です。1度目は第24回地中海、2度目は第35回アジア・アフリカクルーズで夫婦ともに1か月余りの短期間の参加でした。3度目は夫の3回忌も済ませ一人での長期間の旅でした。美しき辺境のアラスカの旅、憧れの福祉国家、新緑の北欧5ヶ国の歴史と絶景を訪ねました。

ピースボートは元々日本発着の外国船で長期間世界を巡り、観光のみならず、世界平和について考える交流の場としての船ですが、以前と比べ円安の関係もあり4割が世界各国からの参加者でした。一緒に寄港地

ツアーに出かけたり、自主企画の発表や講演会などで意見交換したり、洋上での運動会、夏祭り、クイズ大会など様々なイベントがある中で連帯感が生まれ、年齢を忘れて楽しみました。



毎日が充実した日々で、いろいろな国の人とも親交を深めることができました。各国を巡る中で大勢のイスラエルへの抗議デモがありました。みんなで議論する中で、どこの国の人も戦争には反対で平和を強く望んでいるのに、国を守るためには軍備が必要と考える人もいて、真の平和への難しさを実感しました。

「原爆の図」に近づくために

「原爆の図」の話をするため、中学や高校を訪れる機会が増えている。戦争の記憶は、子どもたちには遠い。それは悪いことではない。戦争は身近にあってはいけない。ではなぜ今、私たちは80年前の記憶を学ぶのか。そんな問いを投げてみる。「平和」が大事だから。じゃあ「平和」ってなに？ 子どもたちは考える。質問を変えてみる。「平和」の反対語はなんだろう？ 戦争。それだけ？ うーん……だけじゃない、かもしれない。核兵器を持つのは「平和」じゃない。そう、いいね。Violence! 恰好良い、英語が出てきた。DV。おお、それから？ ネグレクト、貧困、差別。みんな凄いいね、でもそれって私たちの問題だよ。今は「平和」じゃないってこと？ もう一度聞きます。「平和」ってなに？

岡村 幸宣
(原爆の図丸木美術館)



私たちの世界は「平和」かな？——そんな対話をしつつ、「原爆の図」の文章を声に出して読んでみる。読みながら、スライドで投影した絵を観る。「原爆の図」との距離が、少し近くなった気がする。この絵は私たちだ、と受け止める子も、ときどきいる。

戦争は剥き出しの暴力だが、日常に隠れた暴力もある。「原爆の図」を未来に手渡すことの意味を考えつつ、2025年10月からの長期休館の準備をしている。改修工事を経て、リニューアルは開館60年にあたる2027年5月の予定。綱渡りの運営は続きます。

父の戦後70年の生きざまを伝承する

私の父は、先の大戦末期の沖縄戦において陸軍特攻隊員として鹿児島県知覧飛行場から出撃しましたが、沖縄海域目の太平洋上でエンジントラブルに見舞われて徳之島へ不時着し、生残特攻兵として終戦を迎えました。父の口癖は『生き残った負い目は死ぬまで消えません。』でした。父はその負い目を全国行脚のエネルギーに変え、隊員名簿もない中、終戦直後からたった一人で隊員のご遺族宅を探し出し、慰霊の旅を始め、昭和36年からは特攻を風化させないための遺影集めが加わりました。艱難辛苦を乗り越え、戦後50年となった平成7年には沖縄戦で散華された陸軍特攻隊員1,036名全員の遺影を集め終え、同時に集めた遺書とともに『知覧特攻平和会館』で展示されています。そうした活動が認められ、父は会館の初代館長となり、

板津 昌利
(知覧特攻平和会館初代館長故板津忠正・長男)



晩年には『特攻の語り部』ともいわれました。父は10年前に鬼籍に入り、いまは私が“伝承者”として父の生きざまや特攻を語り継いでいます。

先の大戦末期に日本の若者たちが愛するものを守るために、夢や希望を胸の奥底に押し込めて、爆弾を積んだ戦闘機もろとも敵艦船に体当たり攻撃する『特攻作戦』があったという事実、そうした若者たちの崇高な犠牲があって今の平和な日本があるという事実を決して忘れてはならないと思います。そうした事実を、次の世代、そのまた次の世代へ正しく語り継ぐことは、今の日本で平和を享受している私たちの使命であると私は考えます。

「戦争マンガ」が映す今

「戦後」、急速に発展したマンガという表現メディアは、現在に至るまで、戦争、とりわけ太平洋戦争をモチーフとする作品を常に生み出し続けてきた。マンガは大衆文化であるがゆえに、「戦争マンガ」の歴史を追っていくと、それぞれの時代における、戦争に対する人々の対峙のあり方を垣間見ることができるが、近年増えている「戦争マンガ」は、戦後直後を舞台にしたマンガである。それらの作品では、映画『ゴジラー1.0』のテーマが正にそうであったように、1945年の敗戦をもって「終戦」を迎え、新しい別の時代が始まる——わけではない、ということが強調されている。そこには、現在の日本も実は「停戦」状態でしかないのか

イトウユウ
(京都精華大学国際マンガ研究センター研究員)



もしれない、つまり「戦時中」なのではないかという、無意識の、あるいは意識的な危機感、恐怖感が反映されているように見える。

先日、あるTV番組で、満州引き揚げを体験したマンガ家のちばてつやさんが、戦争というのは大きな渦のようなもので、いま日本は、その渦に巻き込まれる本当にギリギリの端っこにいる、というようなことを話されていた。この渦は、巻き込まれたが最後、どんな力をもってしても抜け出せない、とも。抗うのであれば、今しかない。

報告

語り事業の新たな進展

「語り手の会」は実際に戦争を体験した方が、「語り継ぎ手の会」は戦後世代が、共に戦争体験を次の世代に伝えるべく、語りの実演を行っています。

2024年度は、語り手の会から14人の会員が、のべ44回の実演を行いました。語り継ぎ手の会では、20代から70代まで、13人の会員がのべ32回の機会を得ました。

語りの場は、8月に「ピースあいち」や「愛知・名古屋戦争に関する資料館」で開催される「戦争体験者の体験を聞く会」と、小学校から大学、各種団体への派遣です。

二つの会は近い将来に一つになることを検討していて、すでに会員同士の相互の交流が進み、事務局はすでにかなり一体化されています。新たな会員を募りながら、次の時代への再スタートを目指していきます。



語り手の語り



語り継ぎ手の語り

ボランティアガイド研修会

～バックグラウンドを耕す～ 2025年1月11日(土)

NPO理事の西形久司さんを講師に迎え、30名余りのボランティアが参加した研修会は、昨年相次いで発見された不発弾の話題から始まりました。布池教会付近のものは500ポンドのTNT火薬を充填したM64高性能爆弾、三菱発動機もしくは陸軍造兵廠千種製造所を攻撃した時のもの。時限信管が起動したまま80年間足下に潜っていました。戦争記憶のガイド研修会が、突然日常と繋がりました。

西形さんは「戦争体験の語りを聞いて『大変な時代だったね』で終わらせないために、ピースあいちの図書なども活用してバックグラウンドを自ら耕して」と話します。不発弾の話題から多くの戦争記憶が掘り起こされた研修会となりました。



予告

開館18周年 ピースまつり(入館料無料の日)

とき 5月3日(土) 11:00~16:00

ところ ピースあいち全館

ボランティア全体会

3月15日(土)

2024年度にボランティア活動に加わった10名中7名の方が参加し、それぞれが自己紹介と参加の動機などを話しました。



それ以前からのボランティアの方々には29名が参加し、自己紹介や班活動の報告などで賑やかな交流の場となりました。

後半は『合理的配慮のハンドブック』という冊子を元にしたスライドと解説がありました。博物館として、障がいのある方が来館された場合にどう対応したらいいか、事例を挙げて説明があり、理解が深まったようです。

名古屋空襲から80年 犠牲者追悼の夕べ

3月15日

第1部の語り手は井戸早苗さん(86歳)でした。6歳のときの空襲で、当時定められていた防空法のため、ひとりで円上大防空壕へ逃げた体験を、聞き出し役と共に語りました。

第2部はピースあいちの平和地蔵さん前に移り、ボランティアが平和メッセージを書いて手作りしたとし火を並べて法要をしました。建昌寺と瑞光寺僧侶の読経の中、参加者30人が順に平和地蔵さんに手を合わせ、追悼の夕べは終了しました。



「教師のための博物館の日」 in ピースあいち

8月21日(水) 13:30 ~ 15:30

国立科学博物館が「博物館を知ってもらい、学校で博物館を活用してもらうため」に全国の博物館に呼びかけ実施している事業です。今年8月21日、ピースあいちでも開催します。教員の方は入館料無料です。

内容：常設展示の紹介・ガイド／戦争体験のお話／利用可能な所蔵資料の紹介／学校来館のプログラム等の紹介ほか

申し込み 電話052 - 602 - 4222

シリーズ
平和を守る仲間たち②② 熱田空襲 平和地蔵を守った市民の運動

今年熱田空襲から80年。「撤去か存続か」が問われた、空襲の住民犠牲者を悼む平和地蔵が市民の保存運動で守られました。

終戦直前の6月9日、名古屋市熱田区の船方・千年地域にある愛知時計電機・愛知航空機の工場が米軍爆撃機による爆弾攻撃を受けました。同社は当時、海軍監督下の航空兵器製造工場でした。8分程の爆撃で工場従業者、勤労働員学徒、地域住民らあわせて2千数百人の命が奪われました。

終戦の13年後、市民有志と遺族の尽力により愛知時計電機の工場敷地の一角に住民犠牲者を悼む地蔵が立てられました。碑文には「平和と安定」を祈るとあり、「平和地蔵尊」と呼ばれています。

名古屋市は昨年4月、空襲犠牲者を悼み5月14日を

「なごや平和の日」とする条例を制定しました。その時に愛知時計電機が平和地蔵の脇に「7月初旬頃撤去」の通告看板を立てたのです。逆行です。会社側は「転倒による人的被害の回避」と言います。ならば転倒防止の安全対策を施せばよいのです。

5月末、私たち地域住民は「熱田空襲遺跡を守る有志の会」(写真左)をつくり、愛知時計電機社長、名古屋市長、議員、平和団体、地域諸団体、報道機関に、「戦争の悲惨さと平和の大切さを伝える熱田空襲平和地蔵尊の保存と安全対策を」と訴えました。

保存運動は急速に広がり、地域有力者からも「お地蔵さんの維持は会社の社会貢献活動で」との声も出ました。会社側は昨年末、平和地蔵に転倒防止の安全対策工事を実施し保存することを発表。2月、工事が終わり供養がありました。(写真右)

有志の会は2月20日、名古屋市長に対し、①空襲遺跡の保存②空襲体験記録本の復刻③空襲説明看板の設置④不発弾対策を申し入れました。6月には、熱田空襲80年記念の展示会開催を計画しています。

林 信敏
(熱田空襲遺跡を守る有志の会)



ボランティアの窓

“いいな!!”「ここをみんなで
よい場所にしよう」という意識
土方 久子

今は月1〜2回ほど、火曜日のお当番に参加しています。ボランティアを始めたきっかけは、パート契約が期間満了となった時、今後も社会にかかわる活動を何かしら続けていきたいと思ったからです。

笑顔と明るい声にあふれるピースあいちには私にとって日常の家庭生活からの解放であり、気分転換に最適な場所になっています。その雰囲気のおかげかいつの間にか15年を超える年月のボランティア参加になりました。

来館者の方々の手による「折り鶴」を千羽鶴にする糸つなぎの作業をすることもあるのですが、個性豊かな折鶴たちに苦戦することもしばしばです。

ピースあいちの仲間たちの「ここをみんなでよい場所にしよう」という意識が感じられるのが大好きで“いいな!!”と思っています。



私のボランティア活動

巽 利武

私は自分の空いた時間にボランティアに入っています。いまだ超初級レベルですが何とか続いています。企画展や語り手の方、語り継ぎ手の方の記事が新聞に掲載されたりテレビで報道されるととてもうれしく思います。「なごや平和の日」関連や高校生ボランティアの活躍などで、私の新聞スクラップもたくさんできました。企画展だけでなく、関連イベントの映画や講演会なども多く、楽しませていただいています。

昨年10月10万人の来館者を達成したピースあいちは多くのボランティアのパワーで民営の資料館として存続。館長自ら展示作業を率先している姿は感動ものです。「戦争は人を人ではなくしてしまう行為です」「命と平和を大切に」「平和は宝と思いませんか」と、子どもたちに戦争体験を語る語り手の方のお話を聴いたり、2階の常設展にある「紙のランドセル」に想いを寄せているだけのボランティアです。しかし、開館20周年まではボランティアを続けて進歩した姿を見たいです。



資料館探訪 40

原爆の図 丸木美術館 —埼玉県東松山市—

「あの絵にもう一度会いたい」そこから始まった今回の旅。

ここ丸木美術館は、丸木位里と俊夫妻が建て、二人が共同制作した作品を多数所蔵しています。15部作「原爆の図」をはじめ「南京大虐殺の図」や「水俣の図」などの大規模な作品も壁一面に展示されており、どの作品も深い悲しみに

包まれた絵なのに、惹かれてしまうのはなぜでしょうか。

美術館の特色として、館外には自然豊かな庭園の中に原爆観音堂などもあり、建物を含めたひとつの作品のようにも思えます。「ここにさえ来れば作品をみることができるよう」と思いを込め建てられた美術館。丸木美術館は今年9月29日か

ら2027年春まで改修工事のため一時休館となりますが、改修前にもぜひ訪れてみてください。東松山へ訪れた際には、名物「やきとり」もお楽しみいただけます。

(M・K)



美術館入口



原爆観音堂



周辺施設案内
(原爆の図丸木美術館ミニガイドブックより)

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

新会員を大募集中!! 知人・友人にもお伝えください。

「ピースあいち」は、民営でボランティア運営でも、光熱費・固定資産税等で施設維持に年1200万円かかります。他方で収入は、展示会などで来館された方の入館料(大人300円、こども100円)は、年100万円にとどきません。多額のご寄付や助成金がとても大きな助けになっていますが、毎年予定できるものではありません。最も頼りになるのは、会員の皆様からいただく年会費収入です。正会員6000円、賛助会員3000円です。いま、正会員が約330人、賛助会員は約400人。もっともっと増やしたいのです。

「ピースあいち」の活動に共鳴していただける方なら、どなたでも大歓迎です。電話・Fax 052-602-4222にご一報ください。クレジットカード、銀行振込で入会、寄付していただけます。



オンラインの
入会はこちら



オンラインの
寄付はこちら

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日
- 入館料 大人300円・小中高生100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験動画のライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

ここ数年で、急激に存在感を増してきたのが「インバウンド」という言葉。簡単にいえば、外国から日本へやって来たヒトやカネのまとめ役といったところか。2024年度のインバウンド消費額は8.1兆円に。なぜ、こんなに日本はモテるのか。

さまざまな理由があるのだろうが、個人的には、1945年以降80年間も戦争をしなかったことが大きいのではと思われる。「ソフトパワー」といわれるスポーツ、芸術、科学、文学、歴史などが国の礎となっている。あとは、将来的に軍事大国にならなければいい。「ピースあいち」ならぬ「ピースにつぼん」として国際社会に認められ、文字度通りの平和国家になれる……かもしれない。(S.K.)